ＪＲ東労組盛岡

No,97
2023 年 1 月 6 日
東日本旅客鉄道
労働組合
盛岡地方本部

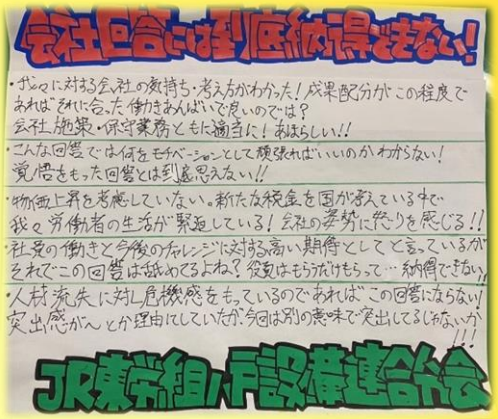
〒020-0045
盛岡市盛岡駅西通二丁目 16 番 31 号
発行人　佐々木克之
編集人　情 宣 部
NTT 019-623-1011 FAX 019-624-0157
JR 033-2238・2239 FAX 033-2230

年頭あいさつ

組合員のみなさん、御家族のみなさん、新年おめでとうございます。そして、JR東労組運動への御理解、御協力に感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

新型コロナウイルス感染症拡大が始まって3年が経とうとしています。依然として感染に細心の注意を払いながらの仕事と生活が続いていますが、JR東労組の組合員は安全・安定輸送と良質なサービスの提供に懸命な努力を続けてきました。その結果、JR東日本の第2四半期決算では、連結単体共に3期ぶりの黒字となりました。御奮闘いただいている組合員のみなさんと御協力をいただいている御家族のみなさんに深く感謝申し上げます。

しかし、年末手当の団体交渉においては、会社より納得感が持てる回答を得ることができませんでした。会社回答に対して職場からは不満の声が多く出され、また将来に不安を持つ社員が増えています。会社は「過去最高の働き度」と言われる社員の奮闘と御家族の御協力をしっかり受け止め、応える姿勢を示すべきであったと思います。年末手当に対するアンケートでは「年末手当の会社回答に納得感がある」と答えたのが 4.3%、「物価上昇や生活実感に踏まえている」と答えたのは2%との結果が明らかになりました。さらには「転職を考えたことがある」と答えたのは 60%、「家族や知人にJR東日本で働くことを薦めたいと思う」と答えたのは 6.7%との結果まで明らかになりました。この厳しい結果が現在のJR東日本の現実として認めなければなりません。また、社友会は年末手当の会社回答に対する社員の声を驚くことに「ニュートラル」「ポジティブ」「ネガティブ」に分類して公表しました。これでは社友会に対しても社員は本音を言うことができません。また、経営幹部の顔色第一の姿勢では、職場現実と社員の本音は益々経営幹部に届かなくなってしまうことになります。JR東労組は職場現実と社員の声から目を背けずに「やるべきことはやり、言うべきことは言う」スタイルを堅持し、「社員と家族の幸福の実現」に向け引き続き奮闘していく所存です。



2022 年度　年末手当　掲示板を活用したたたかい

10月1日に仙台支社が東北本部に名称を変更し、盛岡支社と秋田支社の業務の集約化がスタートしました。また、職場では職場の統合と仕事の融合が進められ、組織のあり方と働き方が大きな変化を迎えています。安全の低下と労働強化のみが進められる施策としないように「鉄道の安全と社員の健康」を守ることを軸に検証運動を強化していきます。

また、地方ローカル線の見直しの動きが活発化しています。昨年2月に国土交通省が地方ローカル線の見直しを検討する有識者会議をスタートさせ、7月には利用者数が 1,000 人未満の線区は国が音頭を取って会社と自治体を協議させる協議会の設置と、そして協議会での審議は3年以内に結論を出すとの提言がされました。そして、その動きと軌を一にしたように、JR東日本は地方ローカル線の収支状況を公表しました。JR東日本は国民の税金でつくられた固定資産を引き継いで経営を成り立たせてきた企業です。したがって、安易に廃線の道を取るべきではありません。また、私たちは労働組合として組合員の雇用と生活を守らなければなりません。見直した場合の組合員の雇用と生活がどう保障されるのかが、一切明らかにされない中での見直しの動きには反対です。

これらの様に 2023 年も多くの課題が山積された中での活動となります。組合未加入者の方々とも、将来を共に考え、共に語り合い、共に手をつないで未来を切り拓いていくために東労組への結集を強く訴えていきましょう。盛岡地本執行部は、2023 年も明るく・楽しく・元気良く精一杯奮闘していきます。組合員・御家族の皆様にとって、良い一年となることを御祈念申し上げ、年頭の御挨拶と致します。

JR 東労組盛岡地方本部　執行委員長　　佐々木　克之